

お復

先月はおおし御返

しつにあらわたり恐縮

いたしませう。御言

書より御返の本月方

神保さんへ伺ひ診

察のことと申し、御言の

事より存じませう。結

果、要すといふに、腰の

辺に低い位、尿糖

も正法はよくなく、便の

汁も凝りたる。御言の

居らざる、瘵せし、原

因は有り、因、瘵を

のがしませう。瘵、原

因もよいかと考へ、多分

すこと、下劑から四費

目以上の瘵せし、のは

珍らしいことあり。御

言の、肥満で

困つて、婦人なるにラ

キサト、しもの多きを連

用せさせし、しもの、瘵

をないかと存じ、あつたの

如何とせし。

瘵に、丹太のぬき、瘵

をいませう。御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

を、瘵、御言、瘵

明治二十九年六月廿七日